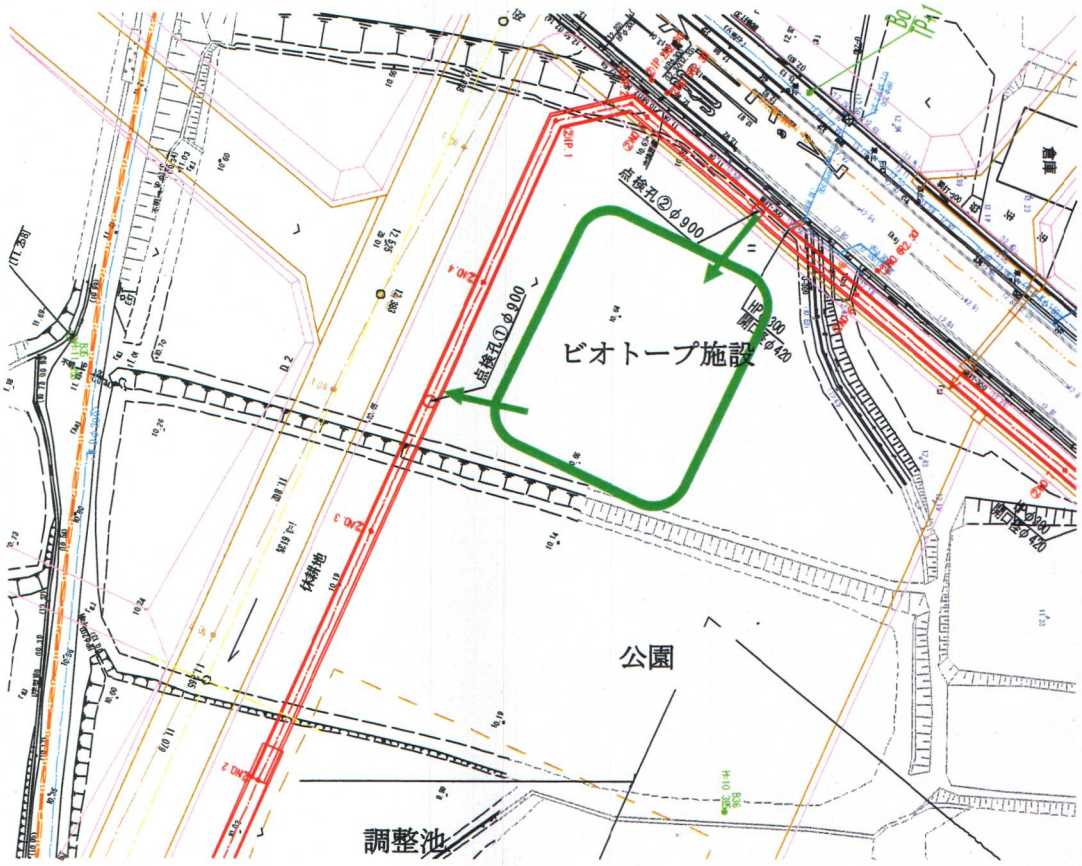
（3） 函渠（水路）を利用したビオトープ施設の検討

公園施設に函渠からの雨水排水の取水によるビオトープ施設の検討について、以下の問題点がある。

1. 水路（ビオトープ施設）への安定した水の供給ができない。
   - 計画函渠は、道路排水を排除する設備であり晴天時には水の供給が滞る。
   - 雨天時には、初期雨水（大気中の汚染物質よって酸性度が高く、道路上の汚れを多く含んだ雨水）による水質汚濁が考えられ、水棲生物への影響が懸念される。
2. 上記不安定な水の供給では、水棲生物の繁殖が難しい。
3. ゲリラ豪雨等、急激な水位の変動に対応するためには、人的なゲート管理（堰板等）では対応できないため、流入出量を制御する施設（稼働ゲート等）が必要となる。
4. 函渠計画縦断図より、函渠の水路底までの深さが取水口で3.5m、排水口で2.9mあり、水の流れを確保するには、自然流下でなく絶えずポンプ施設（揚水）を要する。



上記問題点より、計画水路を利用したビオトープ（せせらぎ）の計画は、安全面、環境面からも得策ではなく、調整池等の水を利用するなどの計画を行うべきである。